

第53回 経営協議会 議事要録

日 時 平成27年6月25日（木）14時10分～15時10分

場 所 事務局第二会議室

出席者 宮田亮平 学長、馬場 剛 理事、横里幸一 理事
保科豊巳 美術学部長、澤 和樹 音楽学部長
岡本美津子 大学院映像研究科長

石田義雄 委員、遠山敦子 委員、福井俊彦 委員
高階秀爾 委員、滝 久雄 委員

陪 席 監事：梅崎 壽 監事、金井 満 監事

渡邊健二 理事

越川倫明 副学長、松下 功 副学長

宮廻正明 社会連携センター長 [学長特命（社会連携担当）]

三田村有純 留学生センター長 [学長特命（国際交流担当及び留学生担当）]

大角欣矢 附属図書館長、関 出 大学美術館長

欠席者 中村胤夫 委員

北郷 悟 理事

桐山孝司 学長特別補佐（キャンパス将来構想担当）

○ 議長から審議に先立ち、新たな部局長の紹介があり、引き続き馬場理事から事務系幹部職員の異動について報告があった。

- ・ 松下 計 附属図書館長（大角欣矢 前附属図書館長の後任）
- ・ 秋元雄史 大学美術館長（関 出 前大学美術館長の後任）
- ・ 平尾祐子 学生課長（高橋由紀 前学生支援課長の後任）
- ・ 小林克夫 社会連携課長（相澤尚登 前社会連携課長の後任）
- ・ 朝倉 茂 大学美術館事務長（山中和則 前大学美術館事務長の後任）

議題

1. 東京藝術大学における授業料その他の費用に関する規則の一部を改正する規則の制定について（案）

議長から標記のことについて提案があり、馬場理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

2. 平成26年度財務諸表（案）について

議長から標記のことについて提案があり、馬場理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

3. 平成26事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
議長から標記のことについて提案があり、馬場理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
4. 平成28年度施設整備費概算要求（案）について
議長から標記のことについて提案があり、馬場理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 音楽学部における「飛び入学」及び「スペシャルソリストプログラム（SSP）」並びに「早期教育プロジェクト（EEP）」の実施について
澤音楽学部長から、資料に基づき報告があった。
2. 職員表彰について
馬場理事から、資料に基づき報告があった。
3. その他（昨今の本学をめぐる諸情勢について）
 - 保科学部長から、資料に基づき王暉氏による「万物の平等：代表の断裂」社会実践公演の開催案内、藝大とパリ エコール・デ・ボザールとのグローバルアート共同カリキュラムの実施報告、第6回 東京アートミーティングの共同制作者募集の案内、美術学部教員の受賞報告がそれぞれあった。
 - 澤音楽学部長から、資料に基づき音楽学部 第1回 オープンキャンパスの開催について報告があった。
 - 秋元大学美術館長から、資料に基づき「うらめしや～冥土のみやげ」展の開催について報告があった。
 - 宮田学長から、6月8日（月）に私と保科美術学部長、秋元大学美術館長の3名で大学を開くシリーズ第1回「学生のために、いかに大学の発信機能を高めるか？」と題してトークセッション・学生意見交換を開催したとの報告があった。

その他：（ご助言、ご提言等）

- ・ ボザールに行った際、130年前のデッサンの作品を見て、保存技術が優れていることに驚いたが、藝大でも同様のことが確立できているか。
→修復も含めて世界に誇る保存技術を持っており、最先端の技術である。
- ・ （上野駅公園口に近い）文化会館でさえ、夜は暗いイメージである。奏楽堂は公園の一番奥ということもあり夜は大変暗い。上野「文化の杜」新構想での取組では明るい公園を目指しているとのことなので早急に進めて欲しいと思う。
→上野の山の構想として取り組んでおります。

- トップアーティストにアクセントつけて教育するプログラムは大変素晴らしいと思う。3年生の標準的なプログラムまで早く終えた人には、次はテーラーメイドのカリキュラムを用意するなどフレキシビリティが有効だと思っている。外国で学んだ人は藝大のカリキュラムに入っていない優れたカリキュラムを海外で経験した時には、藝大に対してアドバイスができるといい。それでまた藝大のカリキュラムが生かされる。

システム化したプログラムができると素晴らしいと思う。

→当面は、高校2年生の優れた人を引き上げるというコースで始めるが、普通の入り方でも突出した才能を持つ人がいれば、編入できることを考えており、その辺はかなりフレキシブルに運用していきたい。

- 学生はかなり積極的に飛びついてくれるか。

→飛びついてくれることを期待している。初年度だということと、私学系の音楽大学と音楽高校は看板になるような人材を既に抱えているが、そういう子たちを流出しないように守ると思うので、なかなか難しい面もあるかと思う。あまり喧嘩せず、いい才能と一緒に育てられればと思う。

→毎年、必ず入れるという保証はなくて、本当に素晴らしい優れた才能のある者がいた場合だけ入れて、3年間で卒業させて外国へ送りだそうということが一番重要だと我々は考えている。

→ここ1、2年で大きく波が変わってくるのかなという予測は十分できる。

今までは西洋のものはありがたく頂いてという感覚があったが、もはや東京藝術大学としては対等に、あるいは互いに共有するという環境を作りたいと思う。

- 本当に良くいろいろ考えてやっておられる。いろいろ思いつきで言おうと思っていたことは大体もうやっておられる。他の国立大学等に刮目せよ東京藝大と言いたい。

ちょっとうれしかったのは、実績報告にアニメーションのことが取り上げられたこと。日本が構想を始めたのに他の国々で発展してしまった。今後、持続的に日本が始めたということを世界に示しながらやっていただきたいと思う。

- 非常に早く年俸制の採用、教員の流動化などグローバルを目指して考えておられるのはよく解るが、もう1、2歩前に進めるために年俸の上限を早いところなくして、海外から呼ぶだけではなく、こちらから海外の様々な大学で教鞭をとり、そして日本へ戻ってきていただきたい。今までは定年まで同じところという意向が強かったと思うが、今、全体が動き出した中での制度を考えていただきたい。